空調タイムス　2009/2/9号　6面

蒸気バルブの熱損失を低減

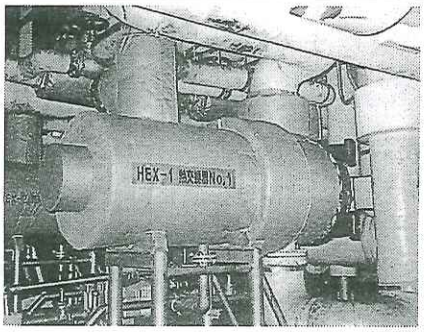
断熱業のパイオニア　ミヤデラ断熱の「保温カバー」

簡単　廉価　即効性あり　支持拡大中

一九一九年創業の断熱業のパイオニア、ミヤデラ断熱（社長＝宮寺力也氏、本社・東京都品川区南品川五―三―一〇）では、保温処理がなされていない（剥き身の）蒸気バルブの熱損失を低減する「保温カバー」が、市場での支持を拡大している。同社は、今月十日に東京ビッグサイトで開幕する第三十三回「地球環境とエネルギーの調和展」（ENEX2009・東京会場）において、「保温カバー」の有効性について詳しく紹介する。

「保温カバー」は、耐熱・耐候性に優れた柔軟なコーティングガラスクロス（アルミ加工クロス仕上げ）を外被材に、耐熱・耐薬品性に優れたガラスクロス（一部品種ではシリカクロスも使用）を内被材に使用した同社オリジナルの一体縫製品（不燃性・アスベスト不使用）。紐・ベルト・マジックテープにより簡単に着脱可能な誰にでも扱えるソフトタッチの全天候型保温材。被覆対象へのストレスがなく、定期点検や頻繁な修理・部品交換を要する複雑・重要な箇所にも気兼ねなく使用できる。

安全使用温度一八〇度Cのベーシックな「保温カバーS（シンプルクラス）」（断熱材・グラスウール、縫製糸・ポリアミド糸、取付方法・マジックテープ、ガラススリーブ）のほか、安全使用温度三五〇度Cの「保温カバーM（ミドルクラス）」（断熱材・ロックウール、ニードルガラスマット、縫製糸・ガラステフロン糸、取付方法・Dカン、ガラススリーブ）、そして安全使用温度五〇〇度C・七〇〇度C・一〇〇〇度Cの「保温カバーH（ハイクラス）」（断熱材・ロックウール、ニードルガラスマット、縫製糸・ガラステフロン糸、SUS糸、石英糸、取付方法・Dカンベルト、マジックテープ）の三品種を用意している。



熱交換器に取り付けられた「保温カバー」

「保温カバー」の近況について、宮寺力也社長は「工場のプラントやビルの機械室などの保温処理されていないバルブやフランジ向けに販売が伸びている。一九八〇年代に建てられたビルでは、当時のトレンドもあり、バルブやフランジの保温処理がなされていない所が少なくない。それが、最近のCO2排出削減ニーズの高まりもあり、保温処理を実施するビルオーナーの方が増えている。取り付けられたお客様からは、簡単に取り付けられ、費用も手頃で、すぐ効果が得られるという評価をいただいている」と話す。

また、「保温カバー」は現在、恒温（高温）域を対象とした製品ラインナップとなっているが、ミヤデラ断熱では、低温対象製品の開発にも意欲をみせており、将来的には幅広い温度域での、保温カバー事業へと拡大させたい考え。

宮寺社長は「工場やビルの新設数が減る中で、事業規模の維持・拡大を進めるには、やはり、既設のリニューアル分野でのビジネス拡充が必要。当社は、百年近い社歴の中で、創業当時から一貫して、保温・断熱による省エネルギー化を事業のコアとしてきた。今、まさに時代が求める要素であり、今年もエコ事業の強化を推進していく」と語った。